

					(別紙3)
	公表 事業所における自己評価総括表				
○事業所名		Brighten School Daikanyama			
○保護者評価実施期間		2025年2月4日		～	2025年2月25日
○保護者評価有効回答数		(対象者数)	39	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間		2025年2月4日		～	2025年2月25日
○従業者評価有効回答数		(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日		2025年2月26日			
○分析結果					
	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること		工夫していることや意識的に行っている取組等		さらに充実を図るための取組等
1	レッジョ・エミリア教育と心理教育プログラム(ABA)による子どもたちの興味に基づいたプログラムを日々作成し、提供している。		一日のスケジュールを提示し、トイレや定時での食事等生活習慣や生活リズムの形成を支援しています。身支度やトイレでの身辺自立には別途手順表を用意することで本人が見通しを持って行動できるように支援しています。		スケジュールは特性を配慮し文字付のものやイラスト、写真など本人にとって見通しが立ちやすいもので提示します。子どもたち一人一人が持つ特別なスキルに目を向け、育てていく。
2	芸術のプロジェクト、社会性のプロジェクト、認知発達のプロジェクト、運動のプロジェクトに分類されたプロジェクトを提供する。		楽しいと思える遊びや運動を通して触る・見る・聞く・動かす機会を提供し、感覚を整理・統合する力を育てます。様々な運動用具を用いて体幹を鍛え、姿勢と運動・動作の基本的技能の向上を目指します。また自分が思った通りに身体を動かすことができるよう、必要な筋力や認知力を向上させてボディーイメージを整えていけるように取り組んでいます。		体を動かすには療育スペースが広くないので、近隣の公園で必要な感覚を統合できるような活動を増やしていく。
3	子どもたちが学びの主体となり、個々の探究心を引き出すために、「EXPLORE」「INQUIRE」「ADJUST」「EXPLORATION&PROJECTS」「DOCUMENT」5つのステップを実施する。		要求や貸し借りなどの場面を意図的に作り、言葉を聞かせたり指導員と一緒に言う練習をします。態度や声に出して要求を伝えることが出来た際には丁寧に応え、思いが伝わる心地よさを感じられるようにし、伝えたい気持ちを育てていきます。また、発達段階に合わせた言語学習（絵本の読み聞かせ、読み書き練習など）を実施し、言葉の理解や獲得を促します。小集団での活動を基本とし、適切な言葉かけや距離感、集団のルール等を学びます。必要に応じて指導員とマンツーマンでの練習を経てから小集団に参加します。		発達段階に合わせて共有や順番待ちの練習、ルールのある遊びを経験したりルールを話し合って決めたりするなど様々な活動する。地域施設等での戸外活動（公園遊び、買い物体験、街探検など）も積極的に組み込み、実際に人との関わりを体験しながら「人間関係・社会性」を育み、大きな集団での般化を促します。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること		事業所として考えている課題の要因等		改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「どう動いたらいいのか」「何をしたらいいのか」を子どもが自ら考え、安心して行動できるようにするための構造化ができていない		子ども同士の相性や特性に合わせて日々グループ分けを行っている為、子ども達の自主性を育む為の構造化に課題がある		スケジュールを視覚的に提示し、どの部屋でどんな活動が1日の中で行われるのか、事前に子どもたちに分かるように伝える
2	建物が半地下で階段は薄暗く手すりがない		バリアフリー対応が出来ていない		施設の環境においては、建物管理会社とオーナーと相談し、対応していく
3	専門職（作業療法士や言語聴覚士など）がいない		支援の方法が的確かどうか判断に困る時がある		研修制度を充実させ、困ったときに専門職の方に聞けるような体制を整備する